

令和 6 年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：京都光華女子大学

1. 事業の実績

(1) 事業目的

幼稚園教員二種免許状を有する教員が一種免許状への上進が可能となるよう、希望者を対象に免許法認定講習を開設・実施するとともに、二種免許状を有する教育職員の専門性の向上を図る。

(2) 事業概要 ※実施日程を必ず明記すること。

日程	科目名	科目区分	申込人数	受講人数	勤務先区分	年齢
令和 6 年 7 月 13 日(土) 7 月 27 日(土)	保育者論	教育の基礎的理解に関する科目	3 名	3 名	私立幼稚園	40 代 2 名 30 代 1 名
令和 6 年 7 月 10 日(水) 7 月 17 日(水) 7 月 24 日(水) 7 月 31 日(水)	保育内容研究	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	1 名	1 名	私立幼稚園	40 代 1 名
令和 6 年 8 月 23 日(金) 8 月 26 日(月) 8 月 27 日(火) 8 月 28 日(水)	保育実践研究	大学が独自に設定する科目	3 名	3 名	私立幼稚園	40 代 2 名 30 代 1 名
令和 7 年 1 月 18 日(土) 1 月 25 日(土)	障害児保育・特別支援教育	教育の基礎的理解に関する科目	4 名	4 名	私立幼稚園	40 代 2 名 30 代 2 名
令和 7 年 2 月 1 日(土) 3 月 1 日(土)	表現	領域及び保育内容の指導法に関する科目	4 名	4 名	私立幼稚園	50 代 1 名 40 代 1 名 30 代 2 名
令和 7 年 3 月 8 日(土) 3 月 15 日(土)	保育内容 (総合表現)	領域及び保育内容の指導法に関する科目	3 名	2 名	私立幼稚園	40 代 1 名 30 代 1 名

(3) 成果（事業の実績の説明）

開講科目	単位数	免許法施行規則に定める科目区分等	
保育者論	1	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
保育内容研究	1	領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
保育実践研究	2	大学が独自に設定する科目	
障害児保育・特別支援教育	1	教育の基礎的理解に関する科目	特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
表現	1	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項
保育内容 (総合表現)	1	領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

【オンライン講座に係る工夫点等 事例：「障害児保育・特別支援教育」】

「障害児保育・特別支援教育」では、1月18日（土）にオンラインで障害児保育・特別支援教育について知的障害や発達障害を主として理論的な理解を図り、対面授業につながる自己の考えや問い、課題意識をまとめることができた。

1月25日（土）の対面授業では、オンライン授業での自己課題や解決したい問いをもとにディスカッションを行うことで、新たな発見が生まれる深い学びを実現することができた。

オンラインと対面でのハイブリッドによる授業は、受講者が基礎基本の修得から自己課題や問い、課題意識を明確にしたうえで対面によりディスカッションをすることで受講生の主体性と学びの質が拡充する講習内容にすることができた。

【障害児保育・特別支援教育】 1月18日：オンライン授業		
	時間	学習内容と達成目標
1 講時	8:50～10:20	「障害児」と「障害のある子」の差異 ：特別な支援を必要とする子どもを取り巻く社会現象や諸問題に対して自分の考えを持ちながら理解する
2 講時	10:30～12:00	障害児保育・教育の変遷、障害のある子どもが登場する絵本研究 ：それぞれの障害の特性を理解する
3 講時	12:50～14:20	障害のある子どもが登場する絵本を通した障害理解（知的障害・きょうだい関係について） ：それぞれの障害の特性を理解する
4 講時	14:30～16:00	障害のある子どもが登場する絵本を通した障害理解（発達障害・成人期の関わりについて） ：それぞれの障害の特性を理解する

【障害児保育・特別支援教育】 1月25日：対面授業		
	時間	学習内容と達成目標
1 講時	8:50～10:20	インクルーシブ保育/教育の理念 ：特別な支援を必要とする子どもを取り巻く社会現象や諸問題に対して自分の考えを持つ
2 講時	10:30～12:00	インクルーシブ保育/教育の実際 ：障害のある子と共に育ちあう教育/保育実践の手だてを考える
3 講時	12:50～14:20	障害のある子と共に楽しむリトミック・わらべうた遊び ：障害のある子と共に育ちあう教育/保育実践の手だてを考える
4 講時	14:30～16:00	障害のある子の家族支援・就学支援、まとめ ：特別な支援を必要とする子どもを取り巻く社会現象や諸問題に対して自分の考えを持つ

【その他受講者の感想（原文のまま）】

《保育者論：受講者の自由記述》

- ・ 現場でのエピソード、課題、悩みを先輩方と話すことができ嬉しく、また勇気づけられました。改めて、自分が持っている教諭免許が貴重で特別なものであるか「責任を持って仕事をする」という意識を再認識する機会になりました。
- ・ 新しい発見が多くあった講義でした。私の中で“保育者論”というタイトルから“保育者はこうあるべき”という強い信念・理念をふまえた上で現状の私はどうなのかというような振り返りをするような固い講義を想定していたので、こんなに芯を捉え、かつ、やわらかい雰囲気の中でディスカッションができたことが、嬉しく、とても勉強になりました。
- ・ ディスカッションを通して人と人とのつながり、気持ちを表現することの大切さ、話に耳を傾け、一緒に考えて頂いた時の言葉では表現できないような心のあたたかさを感じました。
- ・ 少人数であることで、具体的なエピソードを聞け、各園の情報交換ができたことも今後に活かせると感じることが多かったです。最後のエピソード記録についても、同じ視点、異なる考えを出し合うことで刺激をもらいました。
- ・ 少人数での講義だったということも理由として大きいのですが、硬い雰囲気ではなく、やわらかな雰囲気づくりをしてくださった〇〇先生のおかげだと思います。
- ・ 少人数で先生方の目を見て、ゆったりと居心地の良い空間であったことはとても大きいと思います。又、〇〇先生の言葉や声掛け、少し待って下さったり、優しくうなずいて下さったりするところ、すべてが私たちにとって安心して話せる環境でした。
- ・ 先生から私たちの話にコメントや反応を返して頂けたことで、より言語化して考えが明確になりました。（たくさん共感して頂けて嬉しかったです。）一日ありがとうございました。
- ・ 私も立場が上になり、指導したり管理したりすることが多くなってきたのですが、〇〇先生の雰囲気づくりのすてきな所を見習いたいと思った一日でした。ありがとうございました。
- ・ 〇〇先生のような環境を作ること、保護者の方や子どもたち、園の先生に「これも話してみようかな」と思ってもらえる“先生”を目指して日々勉強したいと思います。今日はありがとうございました。また次の講義をとっても楽しみにしています。

《保育内容研究：受講者の自由記述》

- ・ ICT の機器を「子どもたちの表現する道具だ」と考えたことがありませんでした。今日の講義では、そのことを知識として頭に入れるだけでなく、心でああそうだなあと感じ、自分の中に取り入れることができました。
- ・ 〇〇先生のように感性を引き出せる声かけができた時には、子どもたちの内に秘める言葉も聞くことができるなあと思いました。
- ・ 何かを作ったり、表現したりすることが簡単ではなく一歩踏み出せない子どもたちが沢山いると悩んでいた中での講習、私自身が一歩踏み出すことができそうです。
- ・ 素敵な講習で嬉しかったです。元気になりました。

《保育実践研究：受講者の自由記述》

- ・ 一見マイナスととらえてしまいがちなことも、成長につなげるための大切な過程だと感じました。遊びを傍観的にみている場面で環境の変化を受け入れられず、立ち止まる場面があった

けれど、それは次の一步につながっていました。教師としてあせらず見守ることの大切さを改めて気づかされました。

- ・ 初めて講義を受けさせていただきました。一人の子どもの三年間の成長の様子を見させていただき、改めて幼児にとってのこの三年間の大切さに気付きました。一日一日を大切に、一人ひとりの子どもと向き合っていきたいと強く思うことができました。
- ・ 一人の子の成長をみさせていただいて、それについてゆったりと先生方とお話する時間は、新たな発見の連続でした。3歳・4歳・5歳と子どもたちが友達や保護者と関わりながら心身共にこんなにも成長するのですね。毎日色々なことがあります。子どもたちのすぐ側でその成長を感じられる幼稚園という場所にいることを改めて幸せに感じました。
- ・ ディスカッションに入ってください、司会進行というより、聞き手になったり、意見を述べてくださったりしてくださったことで、かたくならずにディスカッションできました。新たに参加された先生も安心されたと思います。ありがとうございました。
- ・ 本日はきのうに引き続き一人の子どもの見させていただきました。きのうと同じような姿を見せてくれたり、新しい一面を見せてくれたりしました。子どもが先生の事を大好きな気持ちが本当に伝わってきて、見ていてあたたかい気持ちになりました。心と体で子どもを受け止める事ができたら子どもも心が安定して過ごす事ができるんだと感じました。
- ・ 保育の場は、本当に子ども達の心が動く尊い場なので、一日一日を大切に子どもたちと過ごしていきたいと改めて感じる事ができました。本日もありがとうございました。明日もよろしくをお願いします。
- ・ 二日目の今日は、子どもたちの様子もまた違い、可愛い笑顔や少し困った顔など様々な表情を見ることができました。前の授業で教わったように先生はいつも子どもたちにとって憧れであり、安心できる存在であり、心のよりどころであることを頭でも心でも感じる事ができ、実践研究をとってもありがたく感じました。幼稚園でしかできないこのような体験、発達に大切な体験をどれだけ子どもたちに提供し、教え、学ばせていくことができるかこれからの毎日の保育内容を園の職員ともう一度見直していきたいと思います。
- ・ 二日間継続してみることができ、昨日と今日ではまた違う面が見られました。昨日は担当児の輝いていた場面とその背景、今日は担当児がつまづいた場面とその原因と考えられることについて皆さんで考えることができ、継続してみることのよさを感じました。
- ・ 今回光華幼稚園で参観させていただき、園児をとりまく環境の一つである教師の動き、声かけ等がすばらしくて自分自身あんな風にできていないかと反省することばかりでした。普段、子どもたちのことをよく見て、信頼関係がしっかりと築けているからこそ、ああいった関わりができるんだと改めて日々の関わり大切さも感じました。ありがとうございました。
- ・ 保育参観や園内研修、公開保育など、今までいろんな機会でも保育をみることはありましたが、こんな形で一人に焦点をあてて半日ずっと追跡し、見るという方法は初めてでした。1日の流れの中で心がこんな風に動いているんだと心の動きがよくわかり、さらに、他の子どもたちの様子をきいた上で、重ね合わせる事ができたので、深い学びのある保育参観ができました。
- ・ 今日は一人の子どもの様子をじっくりと参観させて頂いて、その子の見せる様々な表情を知り、幼稚園生活がかげがえのない時間であることを改めて感じました。

- ・ 今日是一人の子どもを約1時間見させていただきました。一人の子を保育中に見続けるのは初めてだったので、いろいろな気づきがありました。その子の細かい心の動きやその時何に興味を持っているのか等、丁寧に見る事ができました。「明日はこうしてみたい」と自分におきかえて展開が楽しみになったこと、また、理論（ねらいなど）をふまえた上での実践はとても意義深かったです。
- ・ 「流れていく生活の中での先生の役割は何か」どんなことができるか、担任の先生が子どもの想いに一つ一つ丁寧に答えておられる所を実際に見て、私自身どんな言葉掛けをしていたらとふり返り、反省するところが沢山ありました。私が焦点をあてて参観した子が、先生に見せる笑顔にとっても心があたたかくなりました。あんな笑顔を引き出す保育ができるよう明日も学ばせていただきたいと思います。
- ・ 参観させてもらった後、先生方と子ども達について話し合うことができ、さらにいろいろな気づきがありました。自分では気づく事のできない事もたくさんあり、大変勉強させていただくことができました。子どもによって居心地のよい環境はちがうんだなと話し合いながら改めて強く感じ、自分の思いだけで考えてはいけないと思いました。

【障害児保育・特別支援教育】

- ・ 実際に他園の先生方のお考えや悩みを聞かせていただき、「悩んでいるのは自分だけではない」という安心感を得ると共に、家族の方にも寄り添える保育者でありたいと思いました。
「だるまさん」シリーズや実践的に保育で使える技を教えていただきながら、「遊びを楽しむこと」は健常児も障害児も関係なく、その子なりの感じ方、感情、学びがあることを大切にしたいと思います。特に、お手玉は色々な要素があることを知り、現場でも実践したいと思います。
- ・ 本日の講習を振り返って、障害・特性というものは変わらない事実であり、そのことを本人そして周りがどのように受け入れ認知するかで本当にかわってくるなど感じました。目に見える障害もあれば、ぱっと見ただけではわからない障害もあるので、偏見の気持ちをもたずみんなが毎日エンジョイできる保育を私なりに考えていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 前回の Zoom の講習でもそうだったのですが、今回も支援を必要とする人たちの周りの関わりがその人たちの人生を変えるんだと改めて感じました。一人で無理なら職場の先生方と、園だけで難しければ園を出て専門機関や保健師さんと等々できる手立てを探っていくことをこれからも続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

【表現】

- ・ 感じたことや考えたことを自分なりに表現することの大切さを改めて考えることができました。
- ・ 表現することを積み重ねることで、豊かな感性が生まれ、さらに創造性も高めることを実感することができました。
- ・ こどもの「見方・考え方」に寄り添い、見守り、伸ばすことができるような声掛けの工夫をしていきたいと感じました。
- ・ グループ討議を通して、自分では気付かなかったことに気づけたり、自分には無かった視点

からの発見につながったり、グループで話し合うことの意味と価値を実感することができました。

【保育内容（総合表現）】

- ・ 全身で感じて心が動いて学んだというのはずっと自分の力になるなあと感じました。園で過ごす子どもたちの大切な一日一日に総合表現で学んだことを教えていただいた様々な方法で伝えていきたいです。
- ・ 次に何が出てくるかどんな表現をするかワクワクすることが大切だと思いながらお話を聞かせていただきました。自分が表現しているのを動画で見るのはほぼ初めてでしたので、恥ずかしさと共に自分の声を認識し、子どもにどう伝わっているのかなと逆視点で考えるきっかけとなりました。現場ではなかなか一人ひとりの表現にじっくり向き合うことができず、反省することも多いので、ゆっくりと表現を見守り大人も新しい発見を楽しめるように意識したいと思います。教材研究もじっくりとできたので、園に持ち帰らせていただきます。ありがとうございました。
- ・ 音を出したり試したりする中で表現がみつかったり、頭の中のイメージが具現化されるのが面白いなと思いました。
- ・ 小さな絵本1冊の中に無限の表現の可能性があるのだという発見もできました。音、ことば、リズムだけでなく心の拍も今後保育で意識できるとより面白いと思いましたので活かしていきたいと思います。
- ・ すべての総合表現を通して、歌うこと、笑うこと、音を奏でること、耳をすませて聞くこと、描くこと、選ぶこと、踊ること、様々な表現をあたたかい環境の中で引き出して頂いて、いろいろなことに苦手意識があった自分がどこへ行ったのだろうかと思いに思ふほどです。
- ・ 新しい世界を見せて下さる先生方を尊敬します。私も光華女子大学に入学して学びたいです。たくさんのことを学ばせていただいて、今までなかったたくさんの発見をしました。ここで学ばせていただいた時間を宝物にします。本当にありがとうございました。

【工夫と成果】

- ・ 本学キャンパスに隣接する併設幼稚園（光華幼稚園）との連携により、理論と実践を往還しながら専門性を向上させる特色ある講習を実施することができた。大学で理論を学んだ後、併設幼稚園において保育を参観・実践し、再び大学において子どもの活動等について振り返り理論的な整理をするという講習の工夫により、受講者のリフレクションに深い学びの実感が多く表現される成果が見られた。
- ・ 対面、オンライン、オンデマンド（双方向・対話的）での講習を併用したアイブリッド型の講習形態も準備し、研修の高度化を図ることができた。
- ・ 少人数での利点を生かし、受講者が主体的に学びを深めることができた。今年度重視したことは、受講者に「問いを立てること」の重要性を実感できる場の設定をし、問いと主体的な学びの関係や必然性のある課題意識重要性を交流することができた。
- ・ 幼稚園での活動が非認知能力の育成につながっていることを理論と実践の往還から分かりやすく提示することができた。

【受講者数について】

募集活動の中で課題として挙げられる現場の声には、以下のようなものがある。

- ・ 受講したい気持ちはあるが、日々の業務が忙しく時間的な余裕が無い。
- ・ 必ず受講しなければならない、というものではないので受講が難しい。
- ・ 二種免許状を一種免許状に上進しなければ困る、という状況が無い。

上記の反応から、主体的に自らの資質・能力を向上させるという意識改革が必要であると感じている。今後、受講者数を増やすためには引き続き以下のような連携を更に進めていく必要がある。

- ・ 幼稚園の園長から、教諭の資質・能力向上のため積極的に受講を促す声掛けをしてもらう。
- ・ 教育委員会から、園長及び幼稚園教諭へ上進講習の意味と目的を周知してもらい、受講者数を増やす。
- ・ 認定講習実施校から繰り返し、受講依頼のアナウンスを行う。

(4) 今後の課題・展望

今後の課題としては、自己研修・自己研鑽の意識の向上と自ら課題意識と主体的な向上心を持ち、カスタマイズできる研修体制を確立することが重要であると考えます。また、魅力ある免許法認定講習として、特に以下の2点について今後もその質を高めていく必要がある。

- ・ 理論と実践を往還しながら専門性を向上させ、日々の実践につながる講習を提供する。
- ・ 講義実施においては、対面授業とオンデマンド（双方向・対話的）な授業を併用したハイブリッド型の開講形態による研修の高度化を進める。